

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公表番号】特表2002-514261(P2002-514261A)

【公表日】平成14年5月14日(2002.5.14)

【出願番号】特願平11-502887

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 K 3/04

【F I】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 K 3/04

【手続補正書】

【提出日】平成17年3月29日(2005.3.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年3月29日

特許庁長官 小 川 洋 殿

1. 事件の表示

平成11年特許願第502887号

2. 補正をする者



名称 イー・アイ・デュポン・ドウ・ヌムール・アンド・カンパニー

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



4. 補正により増加する請求項の数 3

5. 補正対象書類名

明細書及び請求の範囲

6. 補正対象項目名

明細書及び請求の範囲

7. 補正の内容

- 1) (i) 明細書第13頁最下行「3.2厚さ」を『3.2mm厚さ』と補正する。
(ii) 同第14頁第2行「1／8インチ」を『3／4インチ』と補正する。
(iii) 同第17頁第8行「比較例4」を『比較例C－4』と補正する。
- 2) 請求の範囲を別紙のとおり補正する。

8. 添付書類の目録

請求の範囲

1 通



請求の範囲

1. (i) 1.5～25モル%のテレフタル酸 (T) 残基、6.5～37モル%の2, 6-ナフタレンジカルボン酸 (N) 残基、16～42モル%のヒドロキノン (HQ) 残基及び17～67モル%のp-ヒドロキシ安息香酸 (PHB)残基からなり、ペンタフルオロフェノール/1, 2, 4-トリクロロベンゼン (重量比60/40) 中で25℃で測定したインヘレント粘度が4～10dL/gである全芳香族液晶ポリエステル (但し、T, N, HQ及びPHB 残基の合計モル%は100 に等しい) ;並びに

(ii) 液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で0.1～10重量%のカーボンブラックを含んでなる液晶性ポリエステル成形用組成物であって、更に少なくとも20重量%のガラス繊維

を含むこの成形用組成物から成形された 1.5mm未満の厚さを有する物品が、UL-94 20mm垂直燃焼試験 (ASTM D3801) で測定して、94V-Oの燃焼性等級を示す組成物。

2. T : Nモル比が、10 : 90～60 : 40であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、375℃に等しいか又はそれより低い、示差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、そして存在するカーボンブラックの量が、液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で0.5～5重量%である、請求の範囲第1項に記載の成形用組成物。

3. 前記カーボンブラックの存在量が液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で0.5～5重量%であり、そして組成物が液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で少なくとも20重量%のガラス繊維を含む請求項1に記載の成形用組成物。

4. T : Nモル比が、10 : 90～60 : 40であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、375℃に等しいか又はそれより低い、示差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、そして存在するガラス繊維の量が、液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で25～40重量%である、請求の範囲第3項に記載の成形用組成物。

5. T : Nモル比が、10 : 90～60 : 40であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、375℃に等しいか又はそれより低い、示

差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、存在するカーボンブラックの量が、液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で1～3重量%であり、存在するガラス繊維の量が、液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で25～40重量%であり、そしてガラス繊維が、9～15ミクロンの厚さ (直径) 及び0.8～2.6mmの繊維長を有する、請求の範囲第3項に記載の成形用組成物。

6. (i) 1.5～25モル%のテレフタル酸 (T) 残基、6.5～37モル%の2, 6-ナフタレンジカルボン酸 (N) 残基、16～42モル%のヒドロキノン (HQ) 残基及び17～67モル%のp-ヒドロキシ安息香酸 (PHB)残基から実質的になり、ペンタフルオロフェノール/1, 2, 4-トリクロロベンゼン (重量比60/40) 中で25℃で測定したインヘレント粘度が4～10dL/gである全芳香族液晶ポリエステル (但し、T, N, HQ及びPHB 残基の合計モル%は100 に等しい) ;並びに

(ii) 成形物品の全重量基準で0.1～10重量%のカーボンブラックを含んでなる、1.5mm未満の厚さ及びUL-94 20mm垂直燃焼試験 (ASTM D3801) で測定して、94V-0の燃焼性等級を有する成形物品。

7. T : Nモル比が、10 : 90～60 : 40であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、375℃に等しいか又はそれより低い、示差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、そして存在するカーボンブラックの量が、液晶性ポリエステル成形用組成物の全重量基準で0.5～5重量%である、請求の範囲第6項に記載の成形物品。

8. 成形物品の全重量基準で少なくとも20重量%のガラス繊維を含む請求項6に記載の成形物品。

9. T : Nモル比が、10 : 90～60 : 40であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、375℃に等しいか又はそれより低い、示差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、存在するカーボンブラックの量が、成形物品の全重量基準で0.5～5重量%であり、そして存在するガラス繊維の量が成形物品の全重量基準で25～40重量%である請求の範囲第8項に記載の成形物品。

10. T : Nモル比が、20 : 80～45 : 55であり、HQのモル数がT及びNの合計モル数に等しく、液晶性ポリエステルが、355℃に等しいか又はそれより低い、

示差走査熱量分析法 (DSC)で測定した融点を有し、存在するカーボンプラックの量が、成形物品の全重量基準で1～3重量%であり、存在するガラス繊維の量が成形物品の全重量基準で25～40重量%であり、そしてガラス繊維が9～15 μ mの厚さ（直径）及び0.8～26mmの繊維長を有する請求の範囲第8項に記載の成形物品。